

4 令和4年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月20日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①知識・技能の習得だけでなく、自ら課題を発見し、他と協働して解決する力などを含む「自ら学ぶ力」を育む学習活動を実践する。 ②生徒一人ひとりの多様な学習目標や進路希望を踏まえた教育課程を展開する。	①SSHとして、授業力向上をすすめる。対話的な学習などを通じて思考力と表現力を高めるとともに、学力の向上が実現するような授業をめざす。 ②の目標を達成するためには、第1学年で幅広い学習が必要になる。その一つの指針として35週総授業数(1120時間)の100%達成を目指す。	①授業改善のための研究授業や研修を行い、重点スキルを示してうえで必要となる資質・能力を整理して教科ごとに明確化する。 ②予定総授業数(年間1120時間)の100%達成を目指し、授業確保する。	①重点スキルの共有化により、授業力が向上したか。各教科の授業の中で資質・能力を育成する取組が授業評価に結果として表れたか。 ②予定総授業数(年間1120時間)に対する実施授業数の達成率で評価する。	①「授業力向上委員会」を立ち上げ、科学的思考力の育成の実現をめざし、「観察力」の向上をテーマに全教科で取り組んだ。生徒による授業評価で、観察力向上に「あてはまる」の回答が89%であった。 ②計画通り達成できた。	①今年度から新たな体制としたため、教員側への周知が徹底できなかった。今後は改めて教員の理解を深めて進めていく必要がある。 ②次年度以降も100%達成をめざす。	○ポイントがアップしているということは、目標達成としてよいのではないか。 ○お互いに授業を見合うというのは、これからも進めていくべきである。	①SSHに指定されたことで、新しい委員会などが生まれた。準備が間に合わずに、教員間の情報共有などが不十分であった部分もあった。生徒の主体的な授業への取組を支援するための授業力向上の取組を継続的にすすめていく。	①今後も継続的に授業見学の機会を広げていくことで、授業力向上に関する生徒の肯定的評価を高める。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月20日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
2	生徒指導 ・支援	①部活動などを通し、生徒の自主的活動を支援し、人間性や社会性を培い、企画力、行動力の向上を図る。 ②人間性や社会性の醸成基盤となる、安心安全な学校生活が営めるよう、きめ細かな個別支援体制を構築する。	①委員会や部活動、学級活動などを通じて、生徒主体に行われる活発な活動をサポートし、それを通して生徒の能力の伸長を図る。 ②「気になる生徒情報シート」に基づく生徒情報シート」の基づく情報共有方法の検討や事例の整理を継続し、速やかに連携できるような相談体制の改善と充実を図り、個々に応じた適切な生徒支援を行う。	①生徒総会や委員会を通じて生徒の意見が出せる場を設定し生徒主体の活動の活性化を図る。 ①生徒の活躍を校内外に周知できるように広報活動の充実を図る。 ②「気になる生徒情報シート」に基づく全校的な情報の共有システムの構築と、情報の有機的な活用を行う。 ②日常的・定期的な支援相談体制を周知し、校内外の連携を意識した生徒支援のために、早めの生徒対応をめざす。	①生徒が主体的に活動することができたか。生徒の主体的活動に対し、適切にサポートできたか。 ①生徒の活動をHP等の活用により広報できたか。 ②情報共有システムや相談体制を活用し、生徒支援のために適切な情報共有や指導、対応が行えたか。その対処は適切だったか	①緑高祭や、部活動・委員会に関するアンケートを実施して、それを踏まえたサポートが実施できた。 ①部活動のHPの更新においては、100%の部活動が更新し、各行事でもHPの更新を進めた。 ②情報共有をすすめて、継続的支援を進めることができた。また、アンケートの活用や、いじめ防止推進委員会などとの連携により、多方面から生徒を見守る体制が構築できた。	①生徒会総務部や行事の事項委員会を通じて、活動期会が少ない委員会に活動の機会を設ける。 ①HPの更新を定期的に呼びかける。 ②気になる生徒に対して組織的に対応できるように、個々の支援方法などについて、さらなる改善を試みる。	○データで示されているとおり、目標は達成されているといえるだろう。 ○授業では育むことが難しい人間の幅を広げる活動を大事にしてほしい。 ○生徒がサインを出せる機会やアンケートと面談以外にもつくるべきではないか。	①緑高祭や、部活動・委員会に関するアンケートを実施して、それを踏まえたサポートが実施できたため多くの生徒が満足感を得ることができた。 ①部活動のHPの更新においては、100%の部活動が更新し、各行事でもHPの更新を進めたことにより各部活動の情報の発信をすることができた。 ②生徒情報交換会など情報共有の手段が定着化したことが一つの成果である。表面的な困り感を見せない生徒が多く見受けられる状況にあつて、支援の必要な事態が表面化する前に、生徒が気軽にSC・SSWを活用できる体制づくりが今後の課題である。	①生徒会総務部や各委員会に年間の計画を立案し実行させることにより企画力、行動力の向上を図る必要がある。 ①HPの更新を組織的に進める。定期的に呼びかけを広報グループから行う。 ②次年度からSC・SSWの来校日が増えるので、生徒が気軽に教育相談室に足を運べるような広報と体制づくりに取り組む。
3	進路指導 ・支援	①進路実現に向け、生徒一人ひとりに応じた支援を行うとともに、幅広い教養を持つ大切さや、主体性と人間性の涵養を図る。	①3年間を見通したキャリア教育の実践を図る。	①3年間を見通したキャリア教育計画の改善を図る。	①3年間を見通したキャリア教育計画を改善することができたか。	①3年間を見通したキャリア教育計画を見直し、改善のための検討を重ね、新しいキャリア教育計画を作成することができた。	①次年度に向けて手立ての再確認を、生徒の振り返りワークシートとキャリアパスポートを参考にしながら改善を目指したい。	○キャリア教育計画は、縦軸・横軸とも適切に設定されている。 ○もっと「夢」を持つ指導があってもいいのではないか。	キャリアガイダンスなどの進路行事を通して、3年間のキャリア学習の流れを生徒に意識づけることができた。 生徒が自らの成長を振り返ることで、目標に向けて意欲的に取り組めるよう支援したい。	生徒がキャリアパスポート等を用いて振り返りを行う時間を定期的に設定することで、現状の把握を確実に行う。進路実現に向けて自らを変容・成長させるよう支援していく。
4	地域等との協働	①地域とともに発展し、信頼される学校づくりを推進する。	①学校の教育活動を公開し地域からの理解を深める。 ②後援組織との連携を深め	①ホームページを通して本校の教育活動の理解を深めてもらう。 ②後援組織の人材を活用し公開講座	①新たに実施する教育活動について速やかなホームページの更新をすることができたか。	①SSHに関わる取組についてHPを更新することができた。その他でも年間100件程度の更新を行った。 ②後援組織の人材を活	①より一層見やすいホームページになるよう改善を進める。部活動などの定期的な更新を進める。 ②公開講座の魅力	○目標は達成できているのではないか。 ○開かれた学校という視点での地域や後援組織との連携を、次年度	①SSHに関わる取組についてHPを更新することができた。その他でも年間100件程度の更新を行ったことにより地域からの理解を深め	①より一層新しい情報の提供や見やすいホームページになるよう改善を進める必要がある。生

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月20日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
	②後援組織との連携を深め、学校教育支援体制の充実と地域の人づくりのための貢献を図る。	学校支援体制を整える。	の講師を依頼する。	②後援組織の人材を活用し公開講座の講師を依頼することができたか。	用し、地域の方々への公開している「緑高セミナー」の講師を2名依頼することができた。	が、より多くの生徒、卒業生、地域の方々に伝わるように、情報発信をより一層工夫していく。	以降も広げていってほしい。	ることができた。 ②後援組織の人材を活用し、地域の方々への公開している「緑高セミナー」の講師を2名依頼することができたことなどにより後援組織との連携を深めた。	徒グループと協力し、部活動などの定期的な更新を進めることができるように検討する。 ②公開講座の魅力が、より多くの生徒、卒業生、地域の方々に伝わるように、情報発信の方法をより一層工夫していく。	
5	学校管理 学校運営	①全職員が参画し、組織的・機動的な学校運営体制を推進する。 ②生徒・保護者に信頼される学校を維持するために事故不祥事防止に取り組む。	①生徒の学校生活が安定して継続できるように学習、課外活動や進路に対する支援体制の構築をめざす。 ②さまざまな視点での事故や不祥事防止への意識を職員間で共有することにより、信頼される組織をつくる。	①教員の研修機会を確保して組織的な学校運営を目指す。また、オンライン授業などに向けた設備の整備を進める。課外活動や進路に対する支援体制の構築をめざす。 ②日常から職員間での声掛けにつとめて、気になることを放置しない雰囲気づくりに努める。過去の事例に倣い、事故防止に向けた方策をたてる。	①研修会や情報交換が昨年度より活発に行えたか。オンライン授業が滞りなく実施できたか。 ②事故防止の意識啓発を、月に1回以上実施することができたか。事故の防止のための方策が明確に示されたか。	①ICTやSSHなどの研修会を実施した。また複数の先進校訪問を行った。そこで得ることができた知見は、次年度以降のSSHに活かすことができるものであった。 ②定期的な事故・不祥事防止研修会を実施した結果、本校においては大きな事故や不祥事を防止することができた。	①年間を通じて定期的な研修会の実施後できなかった。SSHについては職員全体で学ぶ機会が十分ではなかった。 ②定期的な事故・不祥事防止研修の実施を継続することで事故防止につとめる。	○働き方をどのようにしているのか。ゆとりをどう持つのか。教員が元気でないとよい教育できない。 ○走りながら取り組んでいくのは致し方ないだろう。	①SSHは1年間実施することができたが、先回りをして対応することが難しかった。担当のみならず職員全体の意識を高めたい。 ②事故・不祥事防止の研修にとどまり、働き方の研修には対応しきれていなかった。	①年間を通じた定期的な研修を実施する。SSHのみならず、ICTの新しい知見を学ぶ研修なども実施したい。 ②事故・不祥事防止以外にも、働き方に対する研修の機会を考える。